



# JEG ニュースレター 131号

www.jegschweiz.com

2013年1月29日発行

## 小さな証

京都で生まれ育ったデンマーク人トムセン・ハンス兄が、紆余曲折を経て、心の故郷に帰るまでの半生の物語。



## 小川洋牧師を迎えて 3度のリサイクル

ロンドン改革派教会の03年から04年にかけて、スイスJEGでお交わり戴いたソプラノ歌手・星野康子姉が10年間の空白の後、カンバックされました。



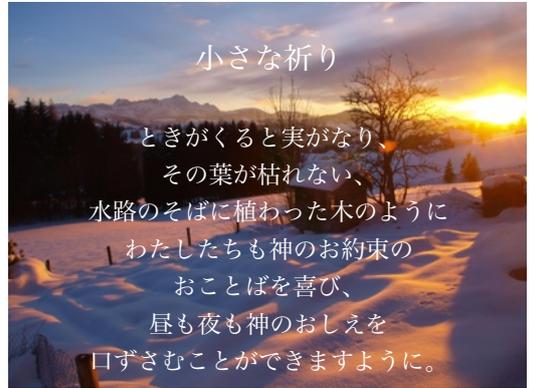
## Otomarikai Report

スイスJEGのティーンズが年の瀬にゲルスタ家を舞台に”お泊まり会”を実施しました。そのレポートを6pでお読み下さい。



## 小さな祈り

ときがくると実がなり、  
その葉が枯れない、  
水路のそばに植わった木のように  
わたしたちも神のお約束の  
おことばを喜び、  
昼も夜も神のおしえを  
口ずさむことができますように。



わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。 エレミヤ書33:3 スイスJEG 2013年の目標聖句



2013年という大海原に出航したスイスJEG丸は、福音という神様から預かった荷物を船倉に、嵐においても凧においても、スイスにある失われた魂の救いのために届けるという使命を、イエス様がついてきてくださるのですから、恐れをすてて、勇敢に会員一同が心をひとつにしてこの務めを果たしていきたいと願っています。

2013年 元旦 スイス日本語福音キリスト教会一同

2013年 新年礼拝

## ちいさな証

## その御旨が分かる日を

トムセン・ハンス

スイス日本語福音キリスト教会会員

私は京都生まれです。子供の頃の思い出は殆ど日本しかありません。幼稚園は京都でしたが、静岡県袋井市近くの小さい村の小学校に通いました。その村のまた山奥の所で父が建てたデンマーク牧場に住んでいました。



両親はデンマークから来た宣教師で、日本で教会を建てたり、クリスチャンのネットワークを設けたり、他の外国人宣教師とさほど変わらない役割をしていました。しかし派遣して下さった教会の希望で他の仕事もありました。一つはキリスト教と他の宗教の間の関係を深めることでした。ですから家にはよくお坊さんやカリスマ的な宗教家が訪ねて来た覚えがあります。そこで父が書いた新興宗教の本はその結果の一つです。

もう一つの仕事はデンマーク牧場を建て、デンマークの農業のノウハウを日本で広めることでした。そこで、祖父がデンマークの赤牛をオイルタンカー船上に作った木造の小屋に入れ、神戸港まで連れて来ました。そして、祖父とデンマーク農業学校からの先生達は静岡の山奥で、母国の牧畜を東北や北海道などから来た生徒達に教えていたことも憶えています。

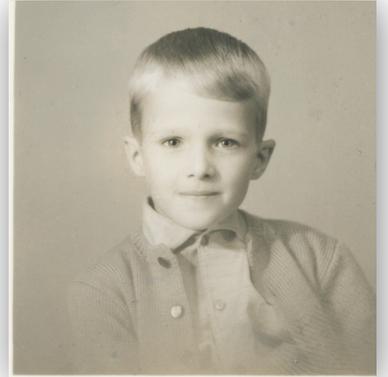


一才の時、京都修学院の家にて。抱かれているのは筆者、両親と兄のエリック

このようにして私は、日本と西洋の関係を熱心に研究し、教えたり説教したりしていた家庭で育ちました。父は自分で組織を作ったにもかかわらず、他の組織が嫌いな人でした。ですから、国際学校に子供を送ることは、せっかく日本に居る意味がなくなる、つまり派遣された国の人と一つになるということを大切にしました。それで私と兄は、その辺のごく普通の学校へ通いました。父は日本語だ

けで十分だと判断し、私達兄弟はデンマーク語や英語は全く習いませんでした。

今から考えるととても幸せな時でした。小さな殿様みたいにちやほやされて、ひどく甘やかされていたと思います。しかし、小学校3年生の時、突然デンマーク行きが決まり、この夢のような時から目を覚まされ、新しい文化に放り込まれました。デンマークの学校では、私はもう殿様ではなくなりました。私にとっては厳しい現地の学校へ通うことになりました。そこで幼い私は、いつか必ず日本へ戻って、また日本との関係を自ら立て直すと、心に強く決めました。しかし、どうやって日本へ帰れるのかは、分かりませんでした。



10歳の時。デンマークに来たばかりの頃。

将来の道が分からない私には、どう進路をとったらよいか、それも分かりませんでした。宣教師の息子のくせに、キリスト教が基本的にはどういうことであるのか、イエス様と歩いていく道とはどういうことなのか、そう言うことは分かっていると思いながら、結局は何も分かりませんでした。宣教師の家庭に育っていても家族の会話で宗教が話題には決してならない不思議な家庭でした。説教や聖書研究をしていた父は、自分の子供を導くより神様に任せておく、という考えだったのでしょうか。行くなら行って、迷うなら迷って、兎に角、宗教は自分で探る道でした。

そこで、ティーンエイジャーの頃より色々探し求めましたが、どの教会、どの宗派に参加しても、問題、いわゆる距離感を深く感じました。結局、教会に頼るより自分の力に頼って神への道を探そうという傲慢な思いが心の中に生まれてきました。デンマークの大学では生化学を研究し、とても真面目な先生に恵まれました。実験室で沢山の時間を過ごし、その後、先生に信頼されて鍵を貰ったので、大学で一晩中実験したこともよくありました。これこそ自分の道だと決め、化学実験を通して神様の「生」が必ずいつか分かるのだと自分中心に考えていました。

もちろん、そんな馬鹿げた考え方は失敗に終わるしかありません。化学は大変素晴らしいもので、優れた研究者が数多くおられますが、生き物の全てが「分かる」までには果てしない道のりがあります。



京都平安教会での結婚式

癌の研究をしていた先生の熱心な説明や研究が分かれば分かる程、落ち込んでいきました。先生がよく言われていた言葉「全てが謎だ」という意味が少しずつ分かってきました。化学者達がやっている研究等は私達の生活に欠かせないものです。しかし、ここでようやく気付いたことは、自分は化学者になる為に勉強し続けていたというより、神様の「生」の神秘を奪い、自分の手中に納める為にこの道に入って来たということでした。この傲慢な目的の為の研究は、結局は無駄ばかりの迷い道でした。

そこで教会を通して道を見つけられない、化学を通して神をみつけれない私は、とことん落ち込んでしまいました。そんなある日、夜中に自分の暗い部屋の中で座って悩んでいた時、不思議な現象が起こりました。一気に部屋中が明るくなり、電球ごときの明るさではなく、周りの物がそのまぶしさで見えなくなるほどの明るさに覆われました。そして、深い幸せが広がり、心の中から全ての悩みが消えた一瞬でした。それが、何であるかを考える必要はなく、それは神様が一緒におられることだと分かりました。

あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。  
詩篇 16:11

私が教会で神を探していた時も、化学の実験室で神を探していた時も、どんな時でも神は、私と共におられたということ

に気が付きました。翌日、大学へ行き、化学のコースを止めました。優れた道ではありますが、私の進む道ではないと分かったからです。大学を一からやり直すことにし、文学部に入り直し、毎年夏に、3年続けて日本語の集中コースを受け、徐々に日本語の知識が付いていきました。

卒業後は日本へ行き、最初は東京の古美術商の弟子として働きました。そのうち骨董屋から研究職になり、今ではチューリッヒ大学で日本の美術や文化を教えています。くにやくにやと曲がりくねった道ですが、私がどの道を選んでも、神様は私と共におられるお方です。

今こうして教職に就いた私も、父や祖父がしてきたように、西洋と日本との間に立ち、何か神様のお役に立てることを探しています。その御旨が分かる日が来ることを信じて、日々この道を歩んでいます。



母の80歳の誕生日に、妹インガー、兄エリック

その道中、神様は私に素晴らしい仲間を与えて下さいました。最初は、最高のパートナーである千香子が妻になってくれ、あっという間に五人の子供達にも囲まれています。父から習ったこと、自分で経験したこと、結局は全て神様が用意して下さいた導きです。まだまだ未熟なクリスチャンですが、これからも神様が示された道に従って生きていきたいと思えます。



愛する家族と。自宅近くのグライフェン湖にて。



家族とともに遠足。アッペンツェルにて。



1、2013年始めのスイスJEG新年礼拝には、南ドイツからマイヤー・マルティン牧師をお迎えしました。マイヤー牧師は「神の恵みとはなにか」をテーマにヨハネ8章1-11節から流暢な日本語を自らドイツ語に訳して解き明かしされました。スイス教会ではマイヤー牧師に今年末まで、月に一度、系統だったメッセージをお願いしました。

2、1月13日の礼拝後の愛餐会において、松林兄制作のDVD「スイスJEG 2012年の歩み」26分が上映され、様々な出来事を振り返り、困難のなかにあっても、大いなる祝福をくださった主に感謝しました。なお、このビデオはYoutubeにアップロードされていますので（NL読者限定公開）お見逃しになった兄弟姉妹にもご覧頂けます。<http://www.youtube.com/watch?v=8uthE4U--2U>

3、2010年6月末からにスイスに留学され、スイスJEGでお交わりを頂いていた音楽家、呉允栄（おうゆんにょん）姉が1月20日スイスを離れ、お姉さんの留学する韓国を訪れた後、2月初旬 郷里の大阪に本帰国されました。呉姉は昨年9月に洗礼を受けた澤田姉の無二の親友として洗礼まで付き添っていただきました。また、パーゼルで一年間の留学を終えた清水和枝姉も1月27日郷里の長野に帰られました。1月13日の礼拝後、2人の姉妹の為にささやかな送別会をもち、スイスJEG2012年の歩みのDVDをお贈りしました。故郷に於いても、祝福された信仰生活を守られますようお祈りします。



呉允栄姉 清水和枝姉



4、1月27日は、ロンドン改革派教会から小川洋牧師をお迎えし礼拝を守りました。“人ではなく神に依り頼む”をテーマにガラテヤ1：6-10から解き明かされました。13日のマイヤー牧師ならびに小川洋牧師のドイツ語通訳の付いたメッセージは、スイスJEGのメッセージ録音サイト<http://jeg.meielisalp.ch>からお聴き頂けます。

なお、小川牧師は、前日、オルテン集会においてもご奉仕され、16名もの参加者があり大変祝福されました。また、28日（月）には、チューリッヒ近郊で持たれた“茶話会”でも、お話いただき貴重なお交わりの時をもつ幸いを得ました、多くの御奉仕に感謝です。

5、第20回・スイス日本語福音キリスト教会の総会が、1月27日（日）13時から14時45分までクリショナ教会の本会堂で開かれました。決算／予算報告、活動報告、本年度の活動計画などが承



1月13日／27日の礼拝と愛餐会スナップ

認され、新役員を選出し、その結果、今村兄、原兄、松林兄、脇山兄の4名が留任となりました

その後、ゲルスタ牧師も加わって第一回役員会が持たれて、原兄が役員会長として選出され、牧師招聘委員会の立ち上げが決定いたしました。また、次の兄弟が世話人会メンバーとして礼拝の企画運営ほか多様な御奉仕にあたって下さることになりました。クンツ・ルツ師、クスター節子姉、今村葉子姉、原しのぶ姉、ヘス明美姉、ヴァイラント千佳姉、フォンプラント美和子姉、フォンプラント・コニー兄（新）。主のからだとしての教会へ多くの時間とエネルギーの要る尊い御奉仕をしていただきます。感謝。



6、スイスブルーリボンの祈りの会会員と北朝鮮による拉致問題に重荷をもつ兄弟姉妹によって、祈りの輪が持たれました。奇しくも小川牧師の説教テーマ“人ではなく神に依り頼む”を胸に、36年前、新潟で拉致された横田早紀江さんの長女、めぐみさんほか、今もなお北朝鮮に幽閉されている同胞の帰還を祈りました。ブルーリボンの祈りの会のサイトはスイス教会のHPにもあり、そこでも現況報告がお聴きになれます。

7、ベルン旧市街の寿司バーNipon Shopは、ながらく田中伸二兄の日本レストラン”歌舞伎”で料理長を勤めた山崎太兄が、田中兄より経営権を譲渡され、寿司バーYamazaki として生まれ変わることになりました。ベルンに行かれましたら是非お立ち寄り下さい。[Sushi Bar Yamasaki in Bern - local.ch](http://Sushi_Bar_Yamasaki_in_Bern-local.ch)



8、スイス教会NLの愛読者で、欧州各地の日本語教会で度々賛美の御奉仕をされ、また高木牧師支援会でも積極的にご支援され、欧州のキリスト者の心にも鮮明な足跡を残された豊川泰子姉が、がんのため1月21日未明に神様の御許に召されました。プリシラ・クンツ宣教師とも親交があり、スイス教会のNLへも度々

感想をいただき励まされていました。豊川姉からスイス教会に贈られた2枚のCDが遺品ともなりました。ご遺族の上に主の深い慰めがあります様にお祈り致します。CDをお聴きになりたい方は受付まで。

9、2月17日（金）に80歳の誕生日をお迎えになる田辺正隆牧師は、みや子夫人と1月29日から2月26日まで一時帰国されます。2月11日には、奥多摩福音の家で、傘寿祝いと10月に迎えられる金婚式のお祝いを兼ねて、お子さんやお孫さん全員を招かれお祝いをされる予定です。祝福された時をお祈り致します。

10、ヨーロッパ・キリスト者の集いのホームページは、ビデオや写真ならびに菜等のコンテンツが充実してきましたので、一度お訪ねになってみてください。<http://europetsudoi.jimdo.com>

11、オーニング宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メールマガジン190号、吉村美穂NL、井野葉由美メールマガ95号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、夜越山祈りの家月報 アジア宣教フォーラムが届いています。お読みにになりたい方は、松林までご一報下さい。

## 日出ずる国から

に、私自身への新しい発見があり驚いています。主がお許し下さる間、歌い続けたいものと願っております。

声楽は、息の芸術です。呼吸を支える筋肉トレーニングが重要です。歌う以上は弛みない努力を自分に課していきたいと願っています。以上、一方的に私の近況を書かせていただきました。年相応の体の痛みもありますが、主の赦しの内を歌いつつ歩んで参りたいと願っています。皆様には、大変ご無沙汰致しましたことをお詫び申し上げます。新しい神様の家族が増し加えられますようお祈りしています。

### 3度のリサイタル

大阪は八尾市の  
星野康子姉から



愛するスイス教会のみなさま、明けましておめでとうございます。音沙汰のない私に、いつも貴地よりニュースレターをお送り戴き有り難うございます。貴地で過ごさせて頂いた日々やお交わりを懐かしく振り返りながらニュースレターを読ませていただいております。

私は、旧年中、3度のリサイタル、チャリティーコンサートを催しました。公に歌うのは10年余りの空白があり、準備に時間と労力を使いました。空白の10余年は神様からの恵みの年、クリスチャンとして、人間として意義深い体験をさせて頂いた年でした。4月のリサイタルは恩師へのプレゼントで、あとの2回は「ハンガーゼロ・アフリカ（日本国際飢餓対策機構 [www.jifh.org](http://www.jifh.org) 主催）へのチャリティーコンサートでした。この2回で60万円余りを献金することができたのも感謝でした。主が門を開かれ、守り、歌わせてくださっています。ある方の感想文に「星野康子さんの世界を心酔しました。」とありましたが、人の心の奥底に届く日本歌曲、主への賛美を歌い続けることが許されていることを大変嬉しく有り難く思っています。「表現する事」「歌う事」を深く掘り下げていく内



### 帰国者リトリートも間近

滋賀は信楽の

ウィリアム富由姫牧師から

スイス日本語教会の皆様へ



明けましておめでとうございます。クリスマスニュースレターを信楽キリスト教会の掲示板に貼らせていただき、こられる方々は、ニュースを読まれ、スイスを近くに感じるようです。これからも、祈らせていただきたいと思います。

今、日本全国で「ミゼラブル」が上映されていますが、多くの人たちが感銘し、感動されているとのこと。滋賀でも上映され、信楽キリスト教会の人たちは、元旦に行かれました。昨日20日に「ソウル・サーファー」のDVDを教会で見ました。感動作で、信仰的に強められました。英会話のこどもたちも参加されました。英会話教室はお母さんと幼児のクラスが出来ました。英会話を親子ですると、10分ほど、家庭、親子などについて語る時間をもうけています。

さて、いよいよ帰国者リトリート滋賀の集まりまで2か月となり、教会員と関係団体、帰国者とも祈り連絡をしています。まだまだ、宿泊できますので、人数が満たされますようとお祈りください。又、参加された人たちが恵まれ、信仰が強められ、日本の地にてたくましく用いられますようとお祈りください。

申し込みはホームページから出来ます。  
<http://kikokushashiga.wix.com/retreat2013>

### 確かに主は来られる

神奈川は川崎の

横田早紀江姉から



スイス日本語福音キリスト教会の皆様いつも、めぐみ達拉致被害者救出のため長期に渡って、心からのお祈りを頂き感謝申し上げます。先日は、皆様からの温かい寄せ書きや、松林様の手書き紙の押し花の見事なお作品のカードを頂きまして感謝でございます。いつもいつもお心をお寄せ戴いておりますのに返信も出来ず失礼を致しており、お詫び申し上げます。

15年もの間、救出活動が続けても、政府や外務省は本当に声を汲み取って解決する気持ちがあるのでしょうかと、疑問を持ってしまうこの頃でございます。政局も落ち着いた昨今で、神様は種々に御心をお働かせになって、種々な事を顕していらっしゃる事と思いつつ歩んでおります。

他の拉致被害者も皆生存して一ヶ所に置かれているとの噂もあり、真偽が解りませんが、主の強い御手に守られていると信じております。めぐみの弟達にも一人と三人、計四人の男児が与えられ、ヘギョンさんだけが女の孫です。早く平和に解決して、皆が楽しく集う事が出来る事を願い祈っております。北朝鮮も、もうこの辺で新しい政治に切り替えて、共に平和の交流を勝ち取りたいと切望します。

ブルーリボンの祈りの会の斉藤真紀子姉ほか、沢山の祈りの手が上げられ、本当に力を戴いております。体力が少しずつ減退しており、無理が効かなくなりましたが、何とか一日一日守られております。スイスの皆様を主が豊かに恵まれ、祝福なされます事をお祈り申し上げます。

確かに主は来られる。確かに地をさばく為に来られる。主は義をもって世界をさばき、その真実をもって国々の民をさばかれる。

詩篇 96:13  
HP: <http://www.jegschweiz.com/> ブルーリボンの祈りの会/

# Swiss JEG Teens



## 僕たちと、私たちに とっての”お泊り会”

ユグナン・ケビン

去年の年暮れにJEGのティーンズクラブのメンバーでお泊り会が行われた。みんなで料理の支度をし、食事を食べ、遊びをしたり花火で楽しんだりしながら共に過ごした時間。

この二日間はみんなの絆を深めるとても貴重な時間となったと思う。

また、JEGに行くようになってからまだ日が浅い僕にとっては、みんなのことをより良く知る機会ともなった。今まで知らなかった一人一人の個性に驚いたり感心したりしつつ、みんなの人柄の良さにも改めて感心した。JEGを初めて訪れた時から感じていたことだが、みんなとてもオープンで愛想がよく、誰でも優しく歓迎するその様子は、決して当然のことではない。

このお泊り会のこと  
で特に感謝と尊敬の気持ちでい



っぱいなのはゲルスタ家のみんなだ。ゲルスタ家は6人(ゲルスタ家の一員であるアンドレアス君を含めれば7人)ものティーンズを暖かく家に迎えて下さり、全員分の食事の準備をしたり、全員でくつろげる場所を与えて下さった。笑い声や話し声でさぞかしうるさかっただろう

が、そんなことは気にもせずに常に明るく接してくれた。

二日目の朝には、アンドレアス君が準備してくれたオリエンテーリングに似ている特殊な遊びを行った。まず、紙を一枚もらう。その紙には次の紙の位置を見つけるためのヒントが記されてある。そのヒントに従って次の紙を見つけると、そこにはまた次の紙を見つけるためのヒントが記されている。そうしてウスターの町中に隠されている紙を次々と見つけ出し、最後の紙に記されているゴールに向かうというものだ。



ヒントに従って紙を探しているうちにウスターのあちこちを歩き回るようになっており、ウスターのことをみんなに知らせてもらおうとアンドレアス君が考えてくれたのだ。しかも、紙に書いてあるヒントには暗号のようで解読が難しいものもあり、ウスターに住んでいて町をよく知っている僕でも楽しめるように工夫がされていた。みんなのことを思ってこれだけのものを準備してくれたアンドレアス君には本当に脱帽だ。

さらに、このお泊り会ではただ楽しむだけではなく、聖書について一緒に学ぶことも出来た。神様が我々からどのようなことを望んでいるか、何を与えて下さるのか。ウェンディさんは、聖書についての知識を学校の授業のような重い空気ではなく、明るい雰囲気で見分けやすく説明して下さいました。今思えば、先ほど述べた紙探しゲームはヒントが書いてある紙を探すだけではなく、神を探す、つまりみんなで一緒に神様のことを学ぼうとい

う思いも込められていたのかもしれない。正直、僕の脳がオヤジ脳になっているからそう考えるだけなのだろうと思うが...

今回のお泊り会ではみんなで学び、楽しい時間を過ごせたことを本当に嬉しく思う。こう思えることは、協力して下さいました保護者の皆様、共に過ごす時を少しでも楽しくしようという一人一人の努力や、みんなの人柄の良さのお陰だろう。このような素敵な人間関係の輪に入れたことで、僕はとても恵まれていると思う。もしまたこのような会があるならば、僕は是非参加したい。僕にとっては、心からそう思えるお泊り会だった。



\*この二日間みんなで、すばらしい時間を過ごせたことを感謝しています。みんなともっと知り合うことができました。次回が待ちきれません。トムセン・ヨハナ

\*すごい楽しかったです。二日も天気にも恵まれたし外でも色々な事ができました。皆で協力して作った闇鍋も大成功し、とてもハラハラしながら食べました。今度は春ぐらいにまた出来たら良いなと思います。トムセン・カレン

\*お泊り会でみんなといつもより長い時間を楽しく過ごせた事がとても良かったです。また次のお泊り会が楽しみです。トムセン・チャーリー